

Book Review

臼歯部コンポジットレジン修復 MI時代の臨床戦略

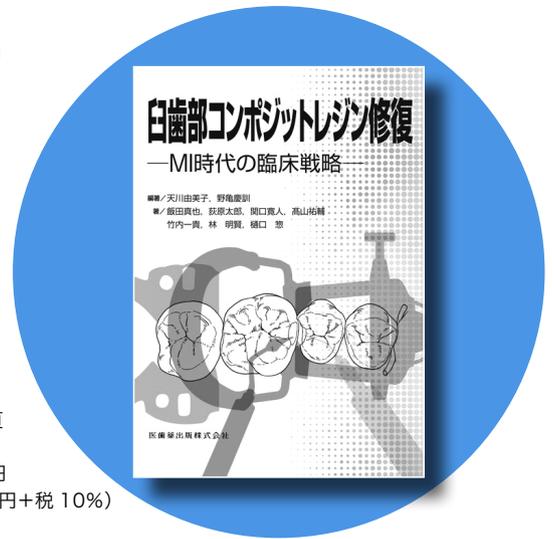
天川由美子・野亀慶訓 編著
飯田真也・荻原太郎・関口寛人・高山祐輔・
竹内一貴・林 明賢・樋口 惣 執筆



Reviewer

牧野泰千 Yasuyuki Makino
(スマイルケア西八王子デンタルクリニック)

A4判, 148頁
カラー
定価 11,000円
(本体 10,000円+税 10%)
医歯薬出版刊



この20年で、歯科界は大きな変革の時代を迎えました。かつて臼歯部の修復といえば、「間接法（特に2級インレーやクラウン修復）」が主流であり、「臼歯部＝間接修復」という認識が長く一般的でした。

しかし、接着技術、コンポジットレジン材料、器具・機材の著しい進歩により、「できるだけ削らず、歯質を保存する」というMI（Minimal Intervention：低侵襲治療）の理念が広く浸透し、臼歯部においても直接法（コンポジットレジン修復）の適応が現実的な選択肢として治療法の一つになってきました。とはいえ、一般臨床においては依然として「臼歯部の歯冠修復において審美性・長期予後を重視する場合は自費のセラミック修復、保険適用ではコンポジットレジン修復や最近ではCAD/CAMインレー」という棲み分けが存在し、臼歯部のコンポジットレジン直接修復に対しては「可能か否か」が曖昧のまま捉えられる傾向がありました。また治療中心から予防中心へと時代が変化するなかで、10年

以上メンテナンスを続けている患者さんの口腔内で修復物の経過を目にすることも多くなりました。そうしたなかで、臼歯部の修復物をどのように選択するか、日々悩むことも少なくありません。

本書は、そうした悩みに新たな視点をもたらし、既成概念を刷新する一冊です。最新のコンポジットレジン材料の進化を背景に、臼歯部におけるダイレクト修復が高い予知性と長期安定性を実現できる時代の到来を、科学的根拠と豊富な臨床経験をもとに明確に示しています。すなわち、臼歯部修復においてコンポジットレジンが“第一選択”となりうることを理論と実践の両面から証明しています。

Chapter構成は明解で、基礎から臨床応用へと一貫した流れで展開されています。「形態の把握」「接着・防湿の考え方」「マトリックス操作の選択」といった臨床の要点が体系的に整理され、さらにマトリックスフリー法やマトリックスワークなど、現場で直ちに応用可能なテクニックも豊富に紹介さ

れています。

各章を担当する先生方は、臼歯部修復、接着歯学、顕微鏡歯科などの分野で確かな実績を有する専門家によって構成されており、文献も多く、理論的裏付けに基づいた構成各章では著者自身が考案・実践している最新の手技が、具体的な材料名・器具名をあげながら詳細に解説されています。そのため、「どのような器具を用い、どのように操作するか」という臨床家が最も知りたい実践的指針が明確に示されている本書は、齶蝕の診断、基礎理論の再確認から実践的手技の習得までを一貫して学べる構成となっており、技術を体系的に身につけたい若手歯科医師や保存修復初心者にとっては格好の学習書であると同時に、日常臨床の精度向上を目指すベテラン臨床家にとっても信頼できるリファレンスとなっています。

まさにMI時代の臨床家にとって“今、読むべき”一冊だと思います。